

## 第12章 今も未解決？

たとえ大地の底だろうと悪事は必ず露見する、

隠れたるよりあらわるるはなし。ー

1969年1月20日、リチャード・ニクソン、アメリカ政治の暗黒王子が長い道のりをやっとゴールに到達しましたーアメリカ合衆国大統領に。前年6月のロバート・F・ケネディへの狙撃がもし外れていたなら、これは決して起こらなかったでしょう。そしてそれに続く歴史も大いに変わっていたことでしょう。ベトナムへのアメリカの関与もほぼ間違いなく数年早く終わっていたでしょうし、ウォーターゲイトもワシントンD.C.のただの一つのホテルとして永遠に残っていたことでしょう。

およそ5年前、彼のお兄さんの殺害のように、ロバート・ケネディの暗殺はアメリカの悲劇的な分岐点でした。しかし、前の殺人と違い、少なくともRFKの暗殺は議論の余地のない明らかな単独の容疑者の明白な事件でした。

あるいは、本当にそうだったのでしょうか？

今の何百万ものアメリカ人が、RFK暗殺がどのようなようであったかを思い出すことができます、サーハン・バシヤラ・サーハンがアイバージョンソンの22口径ピストルを上院議員に向けて発砲したのをTVで目撃されています。しかしこれらの記憶は錯覚なのです。ほとんどの世論とは反対に、TVで暗殺を見た

人は一人もいないのです、何故なら殺人の生中継がなかったからです。サーハンが殺人を犯している写真も映像もないのです。

これはサーハンが犯罪に関与している証拠がないと言っているのではありません。彼はアンバサダー・ホテルの食器室にいた多くの人に銃で発砲するのを目撃され、すぐにそれを見ていた人達に取り押さえられました、その中には前プロフットボール選手のルーズベルト・グリーン、オリンピックスターのラファエル・ジョンソン、そして作家のジョージ・プリムトンが居ました。

サーハンは逮捕され、RFK 殺害の罪で告発され、有罪判決を受け、電気椅子による死刑を宣告されました。しかしながら、カルフォルニア州は1972年に死刑を撤廃し、40年経った今も、サーハンは終身刑に服しています。

実質的に全てのアメリカ人が、RFK の死の責任は、サーハンに当然あると思いついており、彼の単独犯行であることもあらゆる正当な疑問があるにも変わらず確立されています。私も1972年まではその仮説を信じていました、それまで引き続き政治的議論に関わっていた私に、RFK 殺害に関する真の疑問が、私の関心を惹きつけたのです。

私はボブ・ウォルシュ、ロサンゼルスラジオ局 KABC のマネージャーから日曜の午後の4時間のトークショーのホストを依頼されました。私は新米ホストではありませんでした：私は以前 KABC でマーブ・グレイの代役をしたことがありました、あの伝説的なジョー・パイン、改革派が多数派を占める当時のラジオトーク番組に於ける超保守主義者、のプロデューサーだった人です。パインが電話をかけてきた人の意見に同意できないときの彼の得意な表現が「カミソリの歯でうがいしろ！」—KABC の最も評価の高いホストで、雄弁な、イギリスで教育を受けたリベラル派のマイケル・ジャクソンと対照的でした、ジ

ジャクソンのイントネーションと物腰はチャールズ王子のそれととても似たものでした。（局の周囲では、人々がジャクソンが D.C. の、テッド・ケネディ上院議員にベトナムで激しくなっている戦争についてインタビューした時のことを語っていました。ケネディがジャクソンにこういってインタビューを締めくくったのです。「それと、私があなたの音を如何に楽しんだかを是非申し上げたい。」）

私は KABC との契約を喜んで受けたいと思いました。ただ、私はちょうどイギリスの ITV の TV シリーズ「プロテクターズ」に主演する契約をしていて、ヨーロッパとイギリスで撮影する予定だったので、特別な取り決めが必要でした。私は、週に一度イギリスから放送することが出来ることが分かりました、それによって、私が海外にいる間、日曜日のその時間帯を存続することを可能にするのです。

私はその新しい番組をやがてやってくる 1972 年の選挙で、リチャード・ニクソンを追い出そうと張り合っている民主党候補の殆ど全員に、インタビューをちょうどすることで、開始しました。そして通常政治的な事柄についての電話の中で、それなりの馬鹿げた陰謀説の電話も受けました、JFK はダラスで亡くなったのではなく、ザンジバーの海岸にある療養所で、植物状態で生きている；マーティン・ルーサー・キングジュニアはメンフィスで亡くなったのではなく南アフリカで共産党軍を率いている；そしてもう伝統として確立した歴史に対し考慮されるべきだという、はるか 1865 年のリンカーン暗殺にさかのぼってまでの似たような信じ難い代案など。

しかし、私に陰謀について熱心にかけてくる人達のうち一人は、違いました。彼は前 ABC ジャーナリストでジョン・クリスチャンと言い、サーハンは単独犯ではないと信じていました：1968 年 6 月のボブ・ケネディに発砲した

のは一つ以上の銃であること；そしてサーハンは、ジョンの言葉によると、「洗脳された人」だったということ。その引用はもちろん、1961年の映画で私の友人であるジョン・フランケンハイマーが監督した、洗脳された朝鮮戦争の退役軍人が、政府を支配するための筋書きの一部として、大統領候補を暗殺するようにプログラムされたロボット殺人者になる、という映画を指していました。（皮肉なことに、ジョン・フランケンハイマーがRFKをマリブからアンバサダー・ホテルまで、車に載せていったのです、彼の死を目撃することとなるあの6月の夜に）

クリスチャンからの電話に数回応えた後、私は局のマネージャーのボブ・ウォルシュに、彼をスタジオに招いて彼の論旨を詳しく述べさせることへの適否を尋ねました。ウォルシュは応えました、「君は政治的範囲の中道の立場を満たしているんだよ、妙な主流逸脱者ではなくてね。でも君の評判は良いし、君の判断に任せるよ。」しかし、こうも加えました「彼にインタビューする時はスタジオに君のボディーガードをつけることを考えた方がいい。」

その日曜日には私の古い友人のジャック・ニコルソンにもインタビューする予定でした、ジャックは「イーザーライダー」後のキャリアが上手く行き始めたところでした。ジャックが、彼を私のボディーガードにするという申し出を断ったので、護衛を置くことなくジョンと放送をしました。

ジョン・クリスチャンは荒削りのサンタクロースに似ていました：彼は若干赤毛がまじったふさふさの白いあごひげを蓄え、自慢のお腹は標準的な聖ニコラスにほぼ等しいものでした。彼は自信たっぷりに早口で語り、何百もの関連した事実に精通しているのが明らかでした—通常の陰謀行商人とはかけ離れていました。

クリスチャンは、サーハンが1968年6月4日にアンバサダー・ホテルの食器室から本当に発砲したことには同意しました。しかし、彼は、サーハンはその夜のことを全く覚えていない、何故なら彼は、彼の言い方で、「誰かに操られたロボット」であったと主張しました。さらに、その食器室には二人目の暗殺者がいたはずである、何故ならサーハンの22口径のアイヴァー・ジョンソン銃は8発しか打てなく、一方実際には最低でも9発は撃たれている—そして12発までは発砲された可能性がある。

私のナポレオン・ソロとしての年月はクリスチャンの主張の正確度を判断する力を備えてくれませんでした。放送終了後に、私はジョンにもっと彼の主張を裏付ける証拠を私に見せてくれないだろうかと頼みました。彼は、私のマルホランドの家からそれほど遠くないグランデールに住んでいる、引退した弾道学専門家のビル・ハーパーとの会合を設定しました。私はリンダ、その当時は私の婚約者で今までであった中で最も快活な人の一人（同時に探偵小説の熱烈愛好家）と一緒に連れていきました。

リンダと私はハーパー、クリスチャンの二人と2時間を過ごしました、最先端の弾道科学の世界にすぐに迷ってしまいましたが、彼らが同意している2つの鍵となる点は理解しました：一つ目、RFKは後ろから撃たれていること；二つ目、銃弾は至近距離から発射されており、数インチ以内と定義されること。更に検視報告、大陪審記録、裁判資料がこれらの事実を確証スルであろうこと—両方ともきっぱりとこの殺人の公式な説に矛盾するのです。

この激変する可能性を秘めた情報をどうすべきか？私は「ジョンソンおろし」運動を作り出し、私のロバート・F・ケネディへの深い称賛を分かち合う友人の一人の、アル・ロウエンスタインのことを思いました。私は電話を取り上げました。

「アル、次に君が L. A. に来たとき僕のところへ寄ることは出来るかい？  
君と話したい重要なことがあるんだ。」と尋ねました。

「何についてだい、ボブ？」

私はアルに 30 秒版で話しました。彼はこう応えました、「僕は入れなでくれよ。僕はこういう陰謀説には全く興味がないんだ。特にそれがボビーに関することならね。彼に対しては十分に申し訳ないと思っているのは、君もわかっているだろう、もし僕が彼に大統領選に出馬するように説得しなければ、まだ生きていたかもしれないんだ。」

「僕だって同じように思っているよ、アル」私は正直に話しました。「でも僕が普通こういう人達に取り合わないのは君だって知っているだろう。この

ジョン・クリスチャンは違うんだよ。ともかく 30 分彼と座って、話をさせて見てくれよ。」

アルは同意して、1973年の初めに私たちは話し合いのために、谷の明かりを見下ろす私の家の前庭の三つの鞍席に座りました。クリスチャンは彼の理論を簡潔に要点を説明し、アルの興味を引きつけました。アルは検視報告、大陪審記録、裁判資料を精査してビル・ハーパーに会うことに同意しました。

その後の3年間、アルと私の友人である、チャールズ・マンソンとその一味の引き起こした恐ろしい「ヘルタースケルター」殺人事件の検察官として有名なヴィンス・バグリオンが、RFK 事件の再開のため努力をしました。彼らは証拠を調べ、法廷科学の特殊分野に於ける専門家の努力に支えられました。彼らの作業が続くにつれ、アルはますますチャールズの陰謀理論が本質的に正しいと確信するようになりました。 1976年「誰がロバート・ケネディを

殺したのか？」というタイトルのエッセイを「ガバメント・バイ・ガンプレイ」と題された小論集で発行しました。アルは書いています：ケネディ大統領、ケネディ上院議員、マーティン・ルーサー・キングジュニアあるいはウォラス知事を殺害する陰謀があったのかどうかは知らない：彼らのうち一人あるいはそれ以上を殺害する陰謀があったと考えられることは知っている。もしそのような陰謀があったのであれば、それらの間に関連性が有ったのかは私には分からない；それらのいくつかにある種の関連性があるとするのが可能であるとは考えられる。」

どんな事実がアル・ロウエンスタイン、ヴィンス・バグリオシそして他の沢山の論理的かつ知性的な人々をサーハン・サーハンが単独でロバート・ケネディ殺害を実行したのではないと信じさせたのでしょうか？これが私が、理解したこれら事実の総括です。

まずはじめに、サーハン・サーハンは明らかにケネディを殺害した銃弾を撃てる位置にはいませんでした。検視ははっきりとケネディが後ろから、下から、右から、そして至近距離から、銃口が彼の頭から3インチ以上離れていないところから向けられたのを示しています。そして、全ての目撃証人はサーハンがケネディの前において、彼から1.5から4フィート離れていたと言います一致命傷となる銃弾が発射された場所とは全く異なる場所にいました。この矛盾は弁護人によって、弁護人が陪審員に対しての冒頭の論述において、すでにサーハンの罪を認めてしまうまで保留されたので一適正な法律学上の全ての規範に対する違反行為です。

犯行現場で採取された証拠の銃弾もサーハンがRFKを殺害したという理論に矛盾します。情報公開法のお陰で、バーナード・フェンスタウオールド、ワシントンの弁護士、が1976年にその銃撃についてのFBI報告書を入手でき

ました。この報告書は少なくとも12の銃弾がその夜ホテルの台所から発射されたことを示していました。2発はRFKの体から回収され、そして5発は側について負傷した人達から。もう2発はケネディの体を貫通、一つは彼の胸をもう一つは左肩を通り抜けていました。残りの3発は天井のパネルに食い込んでいるのが見付き、そしてさらなる銃弾が出入り具にのフレームに穴をあけていました。それでもなお、サーハン犯人説は、その銃が最大8個の弾しか装填できない彼の銃が、発砲した唯一の銃であったと言うことに依存しているのです。

文字通り計算が合いません。更には、犯罪学者のウィリアム・ハーパーは宣誓供述書に、ケネディを殺害した銃弾はサーハンの22口径アイヴァー・ジョンソン銃から出たものではない、何故ならその弾の弾道学的特徴がその銃のものとは一致しないからである、と誓っていました。

最後に、ロサンゼルス警察がケネディ殺害事件の特有な面を妨害あるいは見過ごし、それによって真実が永遠に明らかにされないように助けたと考えられる理由があります。

例えば、武装した護衛が銃撃の瞬間にはケネディの背後一致命傷となる銃弾が来たはずの位置—に立っていた、そして銃撃が始まったときに、屈みこんで銃を抜いたと述べたにも拘わらず、その護衛の銃がケネディを殺害した銃弾に当たらないかどうかを、意図的なたまたまなのか、一度も検査されていないのです。そして暗殺を撮影したある一人の人物のカメラはロサンゼルス警察当局に没収されました。彼の写真は二度と戻ってきませんでした。



まだまだ特記すべき証拠がありますが、これで十分あなたに本当はサーハン・サーハンに対する裁判がいかに見掛け倒しのものであったかという認識を持ってもらえると思います。

私がこれらのページを書いているとき（2008年1月）、ある新しい証拠が明らかにされました。ロバート・ジョリング博士、法廷科学アメリカアカデミーの元学長と、フィリップ・バン・ブラーグ、音の専門家が、あの運命の夜の録音テープの徹底的な分析に基づいて、少なくとも2つの異なる銃を使い少なくとも12発が発砲されたと結論づけました。彼らは、間もなく彼らのデータをオンラインで掲載し、他の研究者たちに精査してもらうように計画していると私に告げました。

そしてサーハン自身の精神状態はどうだったのでしょうか？サーハンがRFK殺害の役割を果たすべく「洗脳された人」状態であったのは本当に考えられることでしょうか？これは信じがたいことに聞こえるかもしれませんが、しかし、コロンビア大学で教鞭をとるニューヨークの精神病学者で、催眠術における大家と考えられているハーバート・スピーガル博士がこの説を支持します。彼は、サーハンはおそらく、ケネディに向けて発砲したとき、サーハンはおそらく催眠術による指示に反応して行動したのではないかと信じています。彼が逮捕された後、彼はとても混乱して見えました、そして裁判前に精神分析をされたとき、彼が催眠状態に於いての指示にとっても強く影響を受けやすいタイプであることが発見されました、命令によっては監房の格子を猿のように登ることでさえもするくらいに。

おそらく、スピーガルは、サーハンが暗殺後40年たった今でも催眠状態での記憶喪失を誘発されたままではないかと提案しています。

1973年に私がアル・ローウェンスタインにジョン・クリスチャンを紹介した時から、アルは彼の人生の最後の7年間を誰も尋ねようとしない質問の答えを探すことに費やしました。アルが1980年の春に、彼の以前の配下にあったデニス・スウィーニーによって暗殺されたとき、かれはジミー・カーター大統領から、もしカーターが11月に再選を果たしたなら、RFKの死についての調査を再開する約束をまさに取り付けようとしていました。

代わりに、アルは殺され、カーターはリーガンに負け、RFK殺害に覆われた公式な沈黙のベールはかかったままです。

しかし疑問は何人かの勇敢な研究者たちの興味を惹きつけ続けています。そこには2人目—あるいは3人目—の狙撃者がいたのでしょうか？ もしそうなら、誰であったのだろうか？ 銃を抜いて、検視報告で示された角度に屈んだとされるRFKの護衛がこの殺害に何か関わっていたのだろうか？ そして、一番重要なことは、一人以上の狙撃者が関与したと想定すると一弾道証拠が圧倒的に暗示しているように—誰がこの筋書きの首謀者であったのか？ サーハン・サーハンに罪があると熱心に非難する人達でも、この暗殺計画を立ち上げるための知力、財源、組織的力、いわんや、事件が起きてから数十年間秘密を保つ力があるとは思っていません。

ごく最近になって、私の友人の尊敬される調査ジャーナリストで外国通信員のピーター・エバンスが、彼の著書「ネメシス」でギリシャの海運王のアリストテレス・オナシスその人がロバート・F・ケネディの殺害に責任があると示しました。

その本の中で、エバンスは三百ページ以上をこの20年以上に渡ってRFK暗殺の筋書きについて調査して得たことを述べるのに充てています。全ての話

をここで繰り返すよりも、興味のある読者の方には「ネメシス」を勧めます。それはとても興味を引く作品で2004年に発行された時に受けたよりももっと多くの注目を浴びるべきものです。しかし、私が、私自身のこの悲劇的なミステリーにおける関わりをまとめあげるために、2007年に行なったかなり興味深いインタビューの前置きとして必要なので、少しかエバンスの理論を述べておきましょう。

エバンスによると、アリストテレス・オナシスとロバート・F・ケネディの道は1953年に初めて交わっています、RFKがジョセフ・マッカーシー上院議員の悪名高い反共産主義者粛清運動にたいする主任調査員をしていたロイ・コーンの助手弁護士をしているとき

でした。ボビーの仕事のひとつは、アメリカ軍兵士が韓国で戦っているときのアメリカ同盟国と中国赤軍の間の、マッカーシーが劇的なセンスで呼んだ「血の貿易」の調査でした。

RFKはニューヨークの300以上のギリシャ海運業家庭が中国と定期的に貿易をしていることを発見しました。そしてオナシスの船が一隻も含まれていないにも拘わらず、アリは彼の仕事を詮索している誰かが彼がサウジアラビアとサウジの旗をつけて石油を運ぶための船団を供給する交渉を秘密裏におこなっていることを発見するのではないかと恐れたのです。オナシスの心配は1953年10月に現実のものとなりました、それは、アメリカの港に入校するオナシス所有のいかなる船も押収するという封緘された起訴状が手渡された時でした。アリは自分の苦境、巨額の損失とそれに伴う世界一の大富豪になる夢から脱線させた（少なくとも一時的には）ことで、をボブのせいだと非難しました。

RFK に対する憤慨にも拘わらず—あるいは恐らくそれだからこそ—か、オナシスは徐々に社会的にそしてロマンチック的にもケネディ家と関わるようになりました。彼は当時の—ジョン・F・ケネディ上院議員と奥さんのジャクリンに1956年の夏、彼が二人を彼のヨット、「クリスチナ」に招待しました。そして JFK が大統領に上り詰めると直ぐに、アリは、当時スタニスロー・アルブレクト・ラジウィルと言う名の 偽のポーランド人王子と結婚していたジャッキーの妹のリー・ブヴィエー・ラジウィルと情事を持つこととなります。（これは偉大なオペラ歌手のアリ事件と同じことのことです）

しかし、アリは大統領の義理の妹とでは満足しませんでした。彼はジャッキー自身を望んだのです。彼は2才の息子パトリックが衝撃的な死を遂げて間もない1963年8月にファーストレディの弱みにつけ込みました。オナシスはリーにジャッキーを「クリスチナ」に乗って悲しみから立ち直るまでいくらかでも滞在するように招くようにしきりに勧めました。

政治的な見地からは、それは驚くべきことでした：ファーストレディを彼女の妹とその愛人とでギリシャの島々をクルージングさせる—アメリカ政府から不正行為で訴えられている男がそして世界的に有名なオペラスターと情事を重ねている男—数ヶ月後に迫った1964年の選挙再選に向けて、ケネディ家が必要としたシャッターチャンスではありませんでした。しかし、ジャッキーは招待を受諾しました。

30年以上も後の1995年、エブリン・リンカーン、JFK の秘書で恐らく彼がもっとも信頼した彼に使えた人、彼女が、ピーター・エバンスにあの船旅の意義について語りました。JFK は、彼女は言いました、ジャッキーに警告しました、「オナシスの招待を受け入れるのはとんでもない間違いだ、何故なら彼は結果として何らかのお返しを求めてくるからだ。」と。「もしダラスの

ことがなかったなら」、リンカーンがエバンスに言いました、「その船旅は悲劇的な誤った転換として見られていたでしょう。。。何もかも曝け出されていたかもしれません。ケネディの結婚はそのようなどん底に落ちていて。。。もし大統領が生き残り、11月の選挙に勝っていたら、恐らくホワイトハウスの歴史上はじめての離婚があったかもしれません。」

ロバート・F・ケネディ、彼の兄に一番近い政治的助言者で一家の「執行者」のような者であった彼は、オナシスがこの過敏な時期に、ケネディ家の私的な出来事に彼自身を侵入させてくることに緊張と敵意を彼自身とアリの間に高めました。

オナシスとケネディ家との確執は、もういくつかのエピソードで続きます、オナシスが、未だに不可思議なマリリン・モンローの死にケネディ兄弟が明らかに関与していたことを公表しようとした努力も含めて。しかし、エバンスによると、ケネディを殺害するという観念はオナシスが1968年の初めにモハムド・ハムシャリ、ヤジール・アラファトの信奉者で狂信的な反アメリカ、反イスラエル活動家に会うまでは、オナシスの心の中では形をなしていなかったのです。

1967年の6日間戦争の間、アメリカがイスラエルを支援したことに激怒し、ハムシャリは「アメリカの土壌で高名なアメリカ人」を殺害することがアメリカ政府に「ユダヤ人を支援することをもう一度考えさせる」ことになるかと暗示したのです。そしてハムシャリが仕事の関係者を通してオナシスに会う機会を得た時に、その考えを使って、ギリシャの大物からこの陰謀を実行に移すための資金を巻き上げたのです。

「ネメシス」では、エバンスはオナシスとハムシャリの間の取引について、広範囲にわたり詳細を提示しています。彼は、ウィリアム・J・ブライアン博士、ロサンゼルスに本拠地をおく催眠術の有名な専門家が、明らかにその陰謀に関与したと述べています。（そして気味の悪いことにジョン・フランケンハイマーの「洗脳された人」の技術アドバイザーでした）彼はサーハンの裁判から弁護側の証人が、起訴された殺人者を「彼は意識や行動を制御できなく、自分自身を暗殺の道具とするようにプログラムしたようなある種の異様な分離された昏睡状態にあった」と述べたのを引用しました。そして、かつてクリスチナ・オナシスが所有したサーハン・サーハンのノートについて数ページに亘ってのべており、それにはオナシスがRFKの殺害だけでなく、商売に関わる他の二つの殺人にも関与したような暗示をしています。

そして、ヘレーネ・ゲイレットがいます、エバンスの話の中に登場する人物で、私自身もインタビューする機会を得ました。

2007年の、あるとても暗く、霧のかかった晩秋の午後、私はヘレーネ・ゲイレット・デ・ニーガードに、彼女の夫であるウィリアム・スタチュスクと暮らす、ニューヨークのアップパーウエストサイドの広々としたマンションで会いました、そして優雅なヘレーネは私に彼女の長い驚くべき話をしながら、紅茶と美味しいケーキを出してくれました。

彼女は早く娘たちを嫁がせたいとやっきになっていた北フランスの資本家の家の5人娘の一人でした。彼女の高校の卒業生総代であるヘレーネはいくつかの優れた大学から奨学金の申し出を受けていました、しかし、家がニューヨークに移るため、彼女の父は、選択肢はバーナード大学しかないと勧めました。ヘレーネはその大学に入学し、歴史を学び、4つの言語の知識を実践しました、

そして困いを飛び越える名人となり、授業をさぼり、ジャズを聴きにヴィレッジをウロウロするようになりました。

19才のときに彼女は大学を辞め、お父さんの会社の営業として、一年働きました。そして後に、ハンガリアの伯爵であるチャールズ・デ・バルツァと出会い結婚しました。彼女は二人の娘を産みましたが、その結婚は愛が無かった為に別居になりました。しかしながら、デ・バルツァが離婚の前に亡くなったため、彼女は法律的には伯爵夫人のままでした。彼女はニューヨークのイーストサイドに移り、国連の通訳となり、そして、広告と宣伝のフリーランスとなりました。

1968年、彼女はフェリックス・ロハティンと出会います、1970年代にニューヨークを破産から救った男と呼ばれるようになるウォール街の投資銀行ラザール・フレールの投資銀行家—「今までに会った人の中でもっとも魅力的な男性」とヘレーネは言います。ロハティンとヘレーネはその後、東64番街のオーレイホテルのペントハウススイートに住み—私が1968年にチェコスロバキアからアメリカに帰国後に時々住んだのと同じホテルです。今ではニューヨーク引っ張りだこのホテルのひとつで、パリの姉妹ホテルに因んでプラザアテネと名前を変えています。

ついに、ヘレーネは彼女の長い間のプロの写真家になるという夢を叶えます。彼女は「ニューヨークタイムズ」、雑誌「ニューヨーク」、そして「ヴィレッジボイス」のレポーターとして働き、多くの社交パーティ、画廊のオープニング、などその他イベントの写真を取り、メトロポリタン美術館、ニューヨーク図書館、そし他の主な機構のために仕事をしました。

ロハティンの御陰で、ヘレーネはジャクリン・ケネディとも顔見知りになりました。大統領暗殺後、アンドレ・メヤー、フェリックス・ロハティンのラザール・フルーレの仲間である彼が、未亡人が引き継いだ彼の土地財産の監視役をしていたのです。フェリックスとヘレーネは、しょっちゅう、カーライル・ホテルヘメヤーと彼の奥さんを訪ね、そしてそこで、ジャッキー・ケネディと数回夕食をともにしたのです。ヘレーネは、元ファーストレディの写真を取ることには決して許されませんでした。アンドレ・メヤーがジャッキーがオナシスとの結婚の前に、ジャッキーの婚前契約書を整えている時に一緒に座っていました。

ヘレーネはコーチハウス—私の大好きなニューヨークのレストランの一つ—で初めてアリに会いました、1970年代初期に、フェリックスと食事をしているときのことでした。夕食がそろそろ終わりに近づいた頃に、彼が彼女の手を取り彼の唇にあて、彼女に言いました、「次にパリに来て、滞在するところが必要な時には私に電話をください。」

そしてこの偶然の出会いが、ヘレーネをロバート・F・ケネディ暗殺の話において奇妙な状況に追いやることになるのです。

1973年、ヘレーネは、ジョージ・フォアマン—モハマド・アリ戦を取材する為にザイールのキンシャサへ行く予定でした。しかし、その一戦が、フォアマンが目を怪我したため1ヶ月延長されたとき、彼女はパリで時間を持て余し、立ち往生してしまいました。ニューヨークへ戻ろうか、パリに残るか決めかねて居るとき、ヘレーネは突然、アリの招待を思い出しました。

彼女はロハティンからアリの番号を入手しました。15分後、アリが彼女をスコルピオス島にゲストとして招待していました。



ピーター・エバンスはヘレーネから彼女のスコルピオス島訪問について実際1度ではなく2度話を聞いています。彼は1983年、「オナシス、アリ」の伝記を書いているときに彼女にインタビューしました。しかし、互いの知人からの情報で、彼は2003年に再びヘレーネを訪ねました。彼らがこの2度目に会った時、ヘレーネは、最初のインタビューの時に完全に包み隠さず話したのではないと、告白したのです。彼女はエバンスに「あなたが再び来られると知った時、私は考えました:ああ神様、私はこの話をするべきでしょうか、それともすべきではないのでしょうか? 私は礼儀正しい人間だから:私はやってしまったことを話さないわ。そしてその時に私は思ったのです、「やはり、今が私にとってこの話をするべき時なんだわ。今が正しい時なのよ。」

「本当に起きたことは歴史家によって書き留められるべきだと信じています。」そしてこう加えました、「今から100年後の人達が私たちの歴史のせめて一部でも真実を知ることができるように」と。

そして彼女は、私がこの章を書いていたときに私に語ったのと同様の話を、エバンスに語ったのです。

オナシスの妹のアルテミスと彼の娘のクリスチナが、スコルピオスのアリの地所に居ました。クリスチナは彼女の父の健康と幸福を心配していました。彼女はヘレーネに、島で父の写真を一切取らないように約束をさせました。オナシスはいくつか難しい取引を抱えており、クリスチナは父のあまりよくない写真が、彼の敵たちの企に対しより弱く見せてしまうのではないかと、心配していると説明しました。

彼女がスコルピオスに滞在している間、ヘレーネはオナシスのヨットに滞在し、アリは岸の彼の邸宅に留まりました。オナシスはクリスチナで彼女と一緒に昼食を取ることもあり：全く彼を見かけない日々もありました。ある日、彼らは裸で泳ぎに行き、アリが彼女のところへやって来ました。ヘレーネは熱心に返礼をしました。それは彼らの間に起きた最初で最後のことでした。

数日後のある夜、ヘレーネがアリと彼の岸辺の家で食事を共にしました。彼らは宗教も含めて沢山の事について話しました。ヘレーネはカトリックで育ち、そして彼女の信仰に啓示と慰安を見出しました。アリはそのことについて、告解と赦免という考えに魅了されたと言って、彼女に周到に質問をしました。

会話の途中で、彼女はアリがヘミングウェイの有名な見解、裕福な人々と残りの私たち―「彼らがより多くのお金を持っている」に同意するかどうかを尋ねました。笑いながら、「金持ちはより多く抱けるよ、あの嫌な小物のロバート・ケネディでさえ、大勢沢山抱いていたはずだ。。。」

しかしながら、さらに心をかき乱したように、オナシスはボビーに対する憎悪について遠慮なく話続けたのです。ケネディはその5年前に殺害されていました、それでも尚、ヘレーネによると、アリの彼に対する憎悪は未だに鮮明で激しかったのです。

その夜未明に、アリはヘレーネを岸辺まで歩いて送りました。ボートが彼女をクリスチナまですぐに送ってくれるはずでした。しかしその夜分かち合った親密なムードは、アリに御休みと言うのを渋らせたようでした。彼らは共に佇み、長い間海を見つめていました。しばらく経って、ヘレーネはアリが低い、ささやくような口調で独り言を言っているのに気がつきました、まるで深い個人的なお祈りをしている人のようでした。そしてついに、彼女が、アリが言

っていることを聞こうと耳を澄ますと、彼は彼女の方を向いて、極めてはっきりと平易に告げたのです、「あのね、ヘレーネ、私はボビー・ケネディ殺害のためのお金を融通したんだよ。」

私がヘレーネのアップーウェストサイドの住居を出たのは、午後6時でした。私たちは2時間近くを一緒に過ごしたのです。彼女は素晴らしい感性、認識、そして自信の持ち主で、日付、場所、出来事、そして彼女の70年で彼女が出会った驚くべき人々について百科事典的な記憶を持っています。

私は、世界の最も力があり、有名な人々の時と感情に彼女自身を置く能力と、彼女の彼らとの会話に、とても感銘を受けました。私も同じような恩恵を受けて来ています。

かつて1960年代、70年代に私は、ハリウッドのブラックリストについて扱った私の著作「オンリービクティムズ」のために、多数の人々にインタビューをしました。私の質問に対する答えが、正直でなかったり、何かを隠していたり、取り繕ったものであった時は、見分けがつくようになりました。ヘレーネが正直以外の何ものでもないと感じなかったことは、一度もありません。彼女の話が、彼女に起きたことの誠実な解釈である、ロバート・F・ケネディの生涯がどのように短いものにされたのか、その記録をはっきりとさせたいという心からの願いで、今詳しく語ったのだと、私は確信しています。

スコルピオスでの最後の朝、ヘレーネはアリの化粧室にこっそり入り、口紅を使って、彼の鏡に感謝の気持ちと愛情を伝えるメッセージを書きました。彼女はオナシスのお気に入りの表現でそのメッセージを終わらせました。「宿命は降りかかる！」

何年も後、ヘレーネはまた口紅でメッセージを書きました、今度は自分の化粧室の鏡に。彼女は、おとぎ話白雪姫の一節の皮肉な改作を書きました。ヘレーネの改作はこれらの台詞で締めくくっています。

*壁の鏡よ、鏡*

いつか私は全てわかるでしょう

しかしその時には遅すぎるでしょう

私は宿命に出会ってしまっているでしょうから

ヘレーネはまだ宿命には出会っていません。しかし彼女の秘密はもはや秘密ではありません

彼女の話は、誰がロバート・F・ケネディを殺したのか、何故なのかという永遠の疑問を解決するのでしょうか？ 法的にはそれはありません、おそらく道義的観念でさえもだめでしょう。しかし、私のこれほど多くの友人たちとRFKの称賛者達が発見した他の証拠とともに、20世紀の最も重大な犯罪の一つが、今日に至っても、公式な裁定では頑固として未解決のままであることを、十分に明確に示しています。